

国語

教科	科目	単位数	履修年次・選択群	履修区分
国語	文学国語	2	3年次・全	全員
使用教科書（出版社）		副教材（準備するもの）		履修の条件・連絡
標準 文学国語（第一学習社）		ビジュアルカラー 国語便覧 ことのは 三訂版		3年次全員履修科目

1 科目の目標と評価の観点

目 標		
近代（明治時代）から現代までの優れた作品を読み味わうことによって、文章の内容を正しく理解する力を高めるとともに、興味の幅、知識を深め、自分の意見や感想を的確に述べる力を身に付ける。		
評価の観点及びその主旨		
1. 知識・技能	2. 思考・判断・表現	3. 主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 学習計画と観点別評価項目

学 習 の 年 間 計 画	学期	学習内容（単元・項目）		月	学習のねらい	評価の観点
	1 学 期	1	現代の小説（三） 「旅する本」 「富嶽百景」	4	・文学的な文章の種類や特徴について理解を深める。 ・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉える方法を学ぶ。	1 2 3 2 3
		2	近代の小説（二） 「山月記」	5 6 7	・主人公が語る虎になった理由を、文章に即して丁寧に読み取る。 ・主人公の自己省察を理解して、自分の生き方についての考えを深める。 ・漢文調の文体に興味を持って読み味わう。	1 2 3
	2 学 期	3	近代の小説（二） 「清兵衛と瓢箪」	9	・文学的な文章における文体の特徴や表現の技法を理解する。 ・作品に関連のある事項について調べ、その成果を文章にまとめたり発表したりする方法を学ぶ。	1 3
		4	近代の詩 「こころ」 「汚れつちまつた悲しみに」 「永訣の朝」	10 11	・文学詩に親しみ、多様な隠喩を通して詩の描き出すイメージの豊かさを味わう。 ・詩中の表現をもとに、詩の内容と韻律を深く味わう。	2 3 1 3 1 2
		5	現代の小説（四） 「卒業」	12	・仕事に向き合う態度と友人への思いがどのように変化するかを捉え、主人公にとっての卒業の意味を考える。	1 3
	3 学 期	6	現代の小説（四） 「ひよこの眼」	1 2 3	・作品中の表現に注意しながら、主人公の心情の変化を把握する。	1 2 3

令和6年度 シラバス

愛媛県立新居浜南高等学校

学 習 評 価	観点	1. 知識・技能	2. 思考・判断・表現	3. 主体的に学習に取り組む態度
	規 準	○定期考査等では、事実的な知識の習得を問う問題と知識の概念的な理解を問う問題とのバランスを取りながら評価する。 ○課題や提出物の状況の評価に取り入れる。 ○実生活に必要な国語の知識や技能を身に付けることを期し、技能もはかる多様な評価を目指す。	○定期考査等では、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力が身に付いているかをはかることに注力する。 ○論述やレポート等、多彩な表現活動を評価に取り入れ、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができているかをはかる。	○観点別学習状況の評価を通してはかる。 ○ノートやレポート、提出物等における記述、授業中の発言、教師による行動観察、生徒の自己評価等の状況も評価に当たって考慮する内容とする。
	手 段	・定期考査 ・小テスト ・提出物	・定期考査 ・授業中の活動 ・感想文など	・授業中の活動 ・感想文など ・提出物
	単元末や学期末及び年次末における評価の総括方法		単元末、学期末ごとに評価を総括し、年次末に単元末と学期末の評価を行い評価する。	
	学習上の留意点	・小テストの勉強や課題プリントなど、家庭学習をしっかりと授業に臨むこと。 ・ノートや問題集など、提出物は期限を必ず守ること。		